



豊玉二中だより

令和3年度 第6号
発行日 10月1日(金)
練馬区立豊玉第二中学校
校長 神山 信次郎

持続可能な社会に向けて

副校長 木原 賢三

秋空高く爽やかな季節となりました。秋は学びの秋、運動の秋、読書の秋などといわれますが、新学期がスタートし、約1カ月あまりが過ぎました。新型コロナウイルス感染症が急拡大し、緊急事態宣言が発令されている中ででの学校生活で、生徒たちは制限された中ででの生活でしたが、「新しい学校生活」に取り組みながら、目標に向かって充実した学校生活をおくっていました。

さて、今年の夏、東京2020オリンピック・パラリンピック大会が開催され、日本人選手の活躍と数々のドラマチックな展開に胸が躍る、感動的で素晴らしい大会となりました。この東京2020オリンピック・パラリンピックのコンセプトは「Be better, together／より良い未来へ、ともに進もう」という持続可能性を意識したものでした。持続可能な開発を行い、誰一人取り残さない社会を実現するには、スポーツも大きな役割を担っています。持続可能な開発目標(SDGs)とは国連が定めた、今後世界中で目指すべき17の目標の総称であり、今のままの素晴らしい地球の状態を、後生の人類に伝えていくことが目標になっています。現在、世界には環境・貧困・人権・平和・開発といった様々な地球規模の課題があります。今の中学生が将来にわたって美しい地球環境を守っていくには全人類一人一人が自然や社会の課題と向き合い、取り組んでいくことが重要です。

さらに、今年度から実施される学習指導要領では、指導内容にSDGsが盛り込まれ、全ての生徒がSDGsについて学ぶこととなります。本校においても「はばたき」とよばれる総合的な学習の時間で清掃事務所の方々に来校していただき、全学年が環境学習を行い、「ゴミ問題」からSDGsについて考えます。本校では、自分たちの身の回りで起きていることから生徒一人一人が興味・関心を深め、課題を見だし、根拠に基づいて解決していくことが大事だと考えます。そして、必ずしも正解のない課題に対して「自分に何ができるのかを考え、自ら行動できる力」を身に付けてほしいと思います。事実から自分の行動を変容させ、他人事ではなく、自分の事として「～したい!」という行動に結びつくような学習デザインを考えていくことが大切であると考えます。



国連広報センターは今すぐ始められることを「持続可能な社会のためにナマケモノにもできるアクション・ガイド」にまとめています。「家にいてもできること」「家の外でもできること」に分かれていて、「紙やプラスチック、ガラス、アルミをリサイクルすれば、埋め立て地を増やす必要がなくなる」や「買い物にはマイバッグを持参しよう。レジ袋は断って、いつもマイバッグを持ち歩くようにしよう」など中学生にも実行できることがまとめられています。ご家庭でも、子どもと話し合いながら、社会に対して何ができるか考え、小さな事から試してみしてほしいと思います。地域・保護者とともに連携を深め、「チーム豊二」の一步一步が持続可能な社会の実現へとつながっていくようあらゆる教育活動を推進し、生徒の成長を図っていきます。今後とも豊二中の教育活動にご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。